

唐津市観光地経営戦略プラン

2025年版

2025年 3 月

唐津市

目 次

1 はじめに	2
(1) 背景	2
(2) 目的と趣旨	2
(3) プランの位置づけ	3
(4) 計画期間	3
2 現状と課題	4
(1) 延べ宿泊数(国内外含む)の年別推移	4
(2) 延べ宿泊数(国内外含む)の月別推移	4
(3) 日本人の居住地別(発地)延べ宿泊数の割合	5
(4) 訪日外国人の延べ宿泊数の年別推移	6
(5) 訪日外国人の国別延べ宿泊数の割合	6
(6) 観光入込客数	8
(7) 周遊状況	9
(8) 市民アンケート等から見る満足度・重要度(観光施策)	11
(9) 戦略プラン2022年版の実施結果	12
(10) 戦略プラン2022年版の評価	14
(11) 観光関連団体等の主な意見	14
(12) 課題	15
3 基本方針	16
(1) 基本計画	16
(2) 基本施策	16
(3) 達成目標	16
(4) 基本施策	17
(5) 支援体制と役割分担	18
4 用語の定義	20
5 資料編	21

(1) 背景

当市では、2019年1月に唐津市観光地経営戦略プラン（以下、「戦略プラン」という）を策定し、持続可能な観光地域づくりを進めるための基礎づくりに取り組んできました。

本来であれば戦略プランは、2024年12月までの計画期間となっていたましたが、新型コロナウイルス感染症による急激な社会情勢の変動も踏まえ、2022年3月に2022年版（第2期）として戦略プランを改定し、一時的に国内側の誘客を強化しながら、魅力ある観光地域づくりの推進を図ってきました。

また、戦略プラン2022年版の期間中においては、感染症対策やデジタル技術の進展により受入環境が大幅に変化し、新たな旅行スタイルへ弾力的な対応が求められるなど、観光地としてのあり方が変化した期間でもありました。

今回は、2022年版の戦略プランの計画期間が終了することに伴い、当プランで取り組んだ事業の分析と評価、並びに現状と課題を踏まえつつ、2025年版として新たな戦略プラン（第3期）を策定したものです。

(2) 目的と趣旨

2025年版戦略プランは、第3次唐津市総合計画に掲げた当市がめざすまちの実現に向け、地域が一体となった魅力ある観光地域づくりをさらに推進し、新たな観光需要の創造と稼ぐ観光を展開していくことを目的に策定したものです。

観光は、来訪者に楽しみや喜び・感動を与え、気づきや学び、癒しをもたらすなど、人生や生活を豊かにする要素として非常に大きな役割を担っています。

また、観光地域づくりを進めることで、交流人口の増加や観光消費の拡大が図られ、宿泊業や飲食業のみならず、農林水産業（第1次産業）や製造業（第2次産業）など、観光産業以外の幅広い地域産業へ波及効果をもたらすことが期待できます。

さらには、経済効果以外にも当市の知名度や魅力の向上に寄与するものであり、市民の郷土愛の醸成など、地域に様々な恩恵をもたらす効果も期待できます。

このため、観光産業を当市の重要な産業と捉え、観光による経済効果の最大化を図り、唐津に住む人々の生活水準の維持及び向上につなげるとともに「住んでよし、訪れてよし、働いてよし」と市民が地域に誇りを持てる「観光地域づくり」を目指していきます。

(3) プランの位置づけ

戦略プラン2025年版は、第3次唐津市総合計画基本構想及び前期基本計画、並びに唐津市商工業振興基本計画の下位計画として位置づけ、その他関連計画との連携を図るとともに整合性を保つものとしします。

唐津市総合計画前期基本計画 単位施策



単位施策	主な取組	数値目標	
		現状値	目標値
魅力ある観光地域づくりの推進	● 民間の活力も投与しながら、地域が一体となった観光地域づくりを推進し、面的な周遊促進と滞在時間の延長につなげる取組を行う。 ● 国内市場も見据えつつ、訪日外国人向けの滞在コンテンツの開発支援などを行う。	市内エリア間周遊率※	
		1～7%	3～9%
価値を活かした市場開拓と観光地経営を展開	● 国内旅行者の宿泊数を増加させるため、ターゲットに応じた情報発信と継続的な宿泊喚起を行う。 ● 広域連携や地域連携を図りながら、海外向けの面的なプロモーションを強化し、訪日外国人の誘客を強化する取組を行う。 ● 各種データを収集・分析し、観光事業者等へ共有するとともに、施策立案への活用を図る。	日本人延べ宿泊数 訪日外国人延べ宿泊数	
		日本人 419,600泊 訪日外国人 29,555泊	日本人 500,000泊 訪日外国人 50,000泊

※周遊率については、位置情報システム(GPS)を用いて算出した値とする

※周遊率に用いる市内9エリアを固定し、2エリア間の組み合わせで各周遊率を算出

(4) 計画期間

2025年4月から2028年3月までの3年間

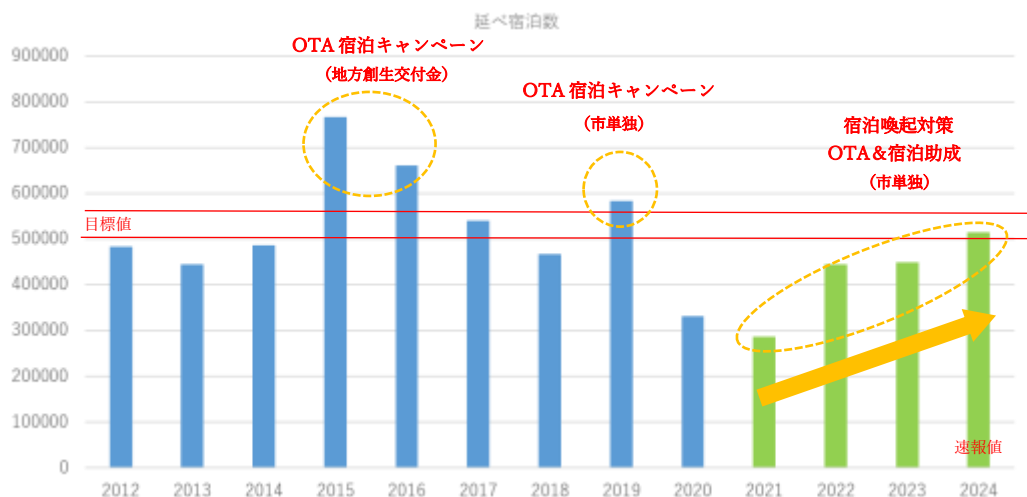
年度	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	R15 2033	R16 2034
総合計画 基本構想【10年】					基本構想					
商工業振興 基本計画【3年】		第2期								
観光地経営 戦略プラン【3年】		第3期								

第2章 | 現状と課題

(1) 延べ宿泊数（国内外含む）の年別推移

[ポイント]

- ・2021 年がコロナ禍の影響のピークであり、延べ30万泊を下回った
- ・継続的な宿泊喚起策の効果もあり宿泊数は順調に回復しており、国内外を合わせると50万泊に到達した状況ではあるが、国内宿泊数については50万泊を下回っている



資料：市内宿泊施設への宿泊数調査結果に基づく推計（唐津市） 国内外含む延べ宿泊数

(2) 延べ宿泊数（国内外含む）の月別推移

[ポイント]

- ・2023年は、各々が3万泊を超えており、2021年と比べ顕著に回復している
- ・2023年は、3月、5月、8月、11月が月4万泊を超えている
- ・徐々に月別宿泊数の平準化が進んでいる傾向にある

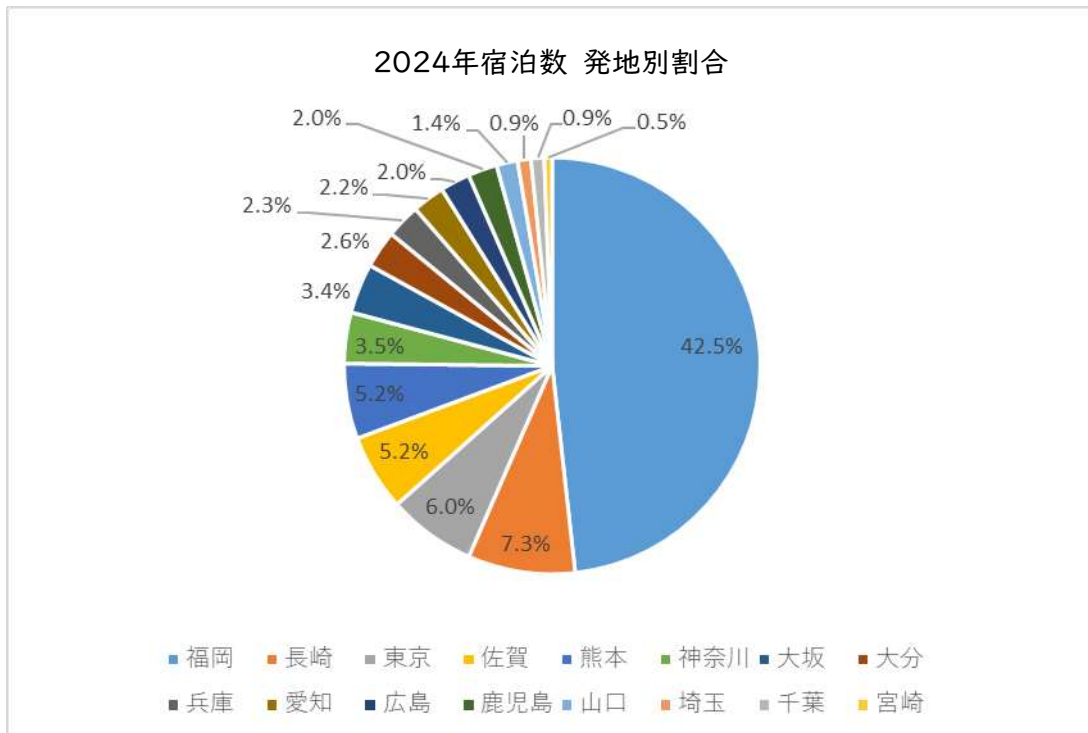
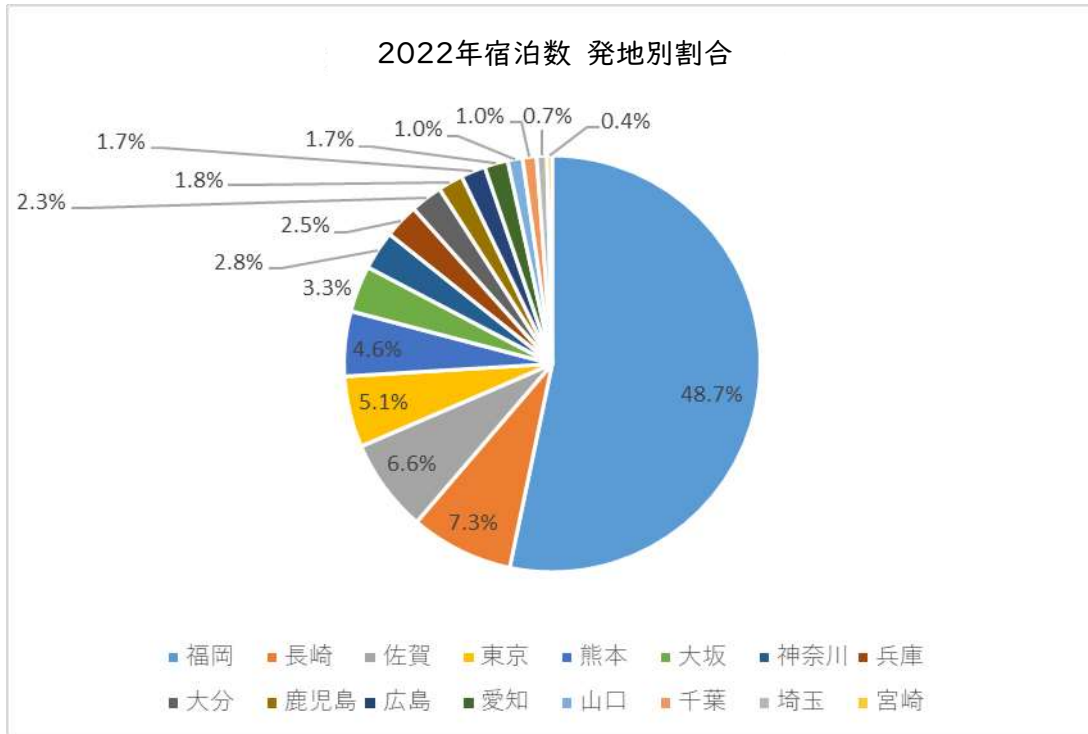


資料：市内宿泊施設への宿泊数調査結果に基づく推計（唐津市）

(3) 日本人の居住地別（発地）延べ宿泊数の割合

[ポイント]

- ・福岡県が全体の約4割を占め、長崎県、佐賀県の北部九州で約6割を占める
- ・2022年と2024年と比較してトップ5に入る都道府県は変動なし



(4) 訪日外国人の延べ宿泊数の年別推移

[ポイント]

- ・2012年から2018年にかけて順調に増加し、2018年には過去最高となる4万6千泊を記録したが、新型コロナウイルス感染症の影響で入国制限がなされたことから、2020年から2022年は大幅に減少した
- ・2023年以降は顕著に回復しており、2024年にはコロナ禍前の状況に近づいている

延べ宿泊数（訪日外国人）

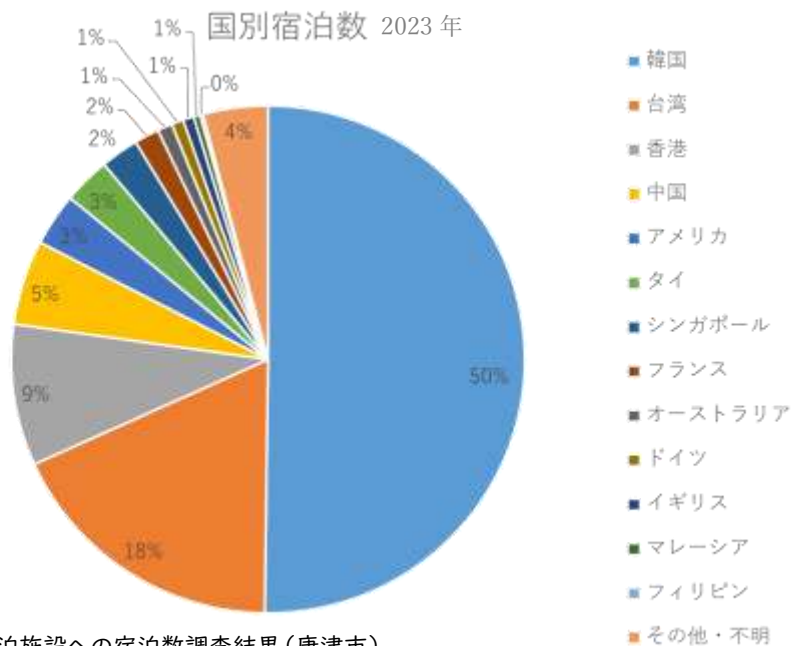


資料：市内宿泊施設への宿泊数調査結果に基づく推計（唐津市）

(5) 訪日外国人の国別延べ宿泊数の割合

[ポイント]

- ・訪日外国人宿泊数の約5割が韓国となっており、アジア圏で約8割を占める
- ・欧米豪は全体の約1割を占めており、増加傾向にある

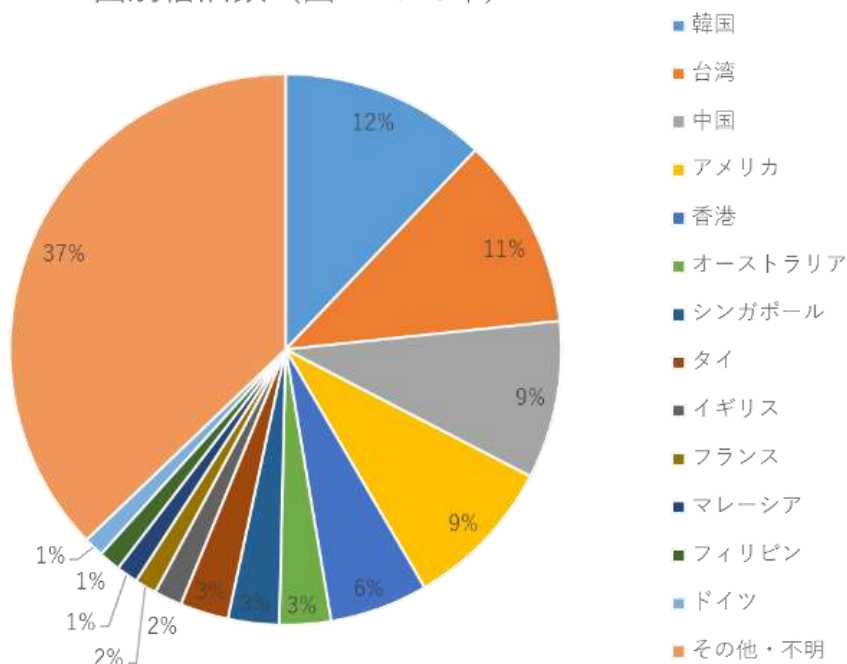


資料：市内宿泊施設への宿泊数調査結果（唐津市）

(参考) 国及び佐賀県における訪日外国人の国別延べ宿泊数の割合

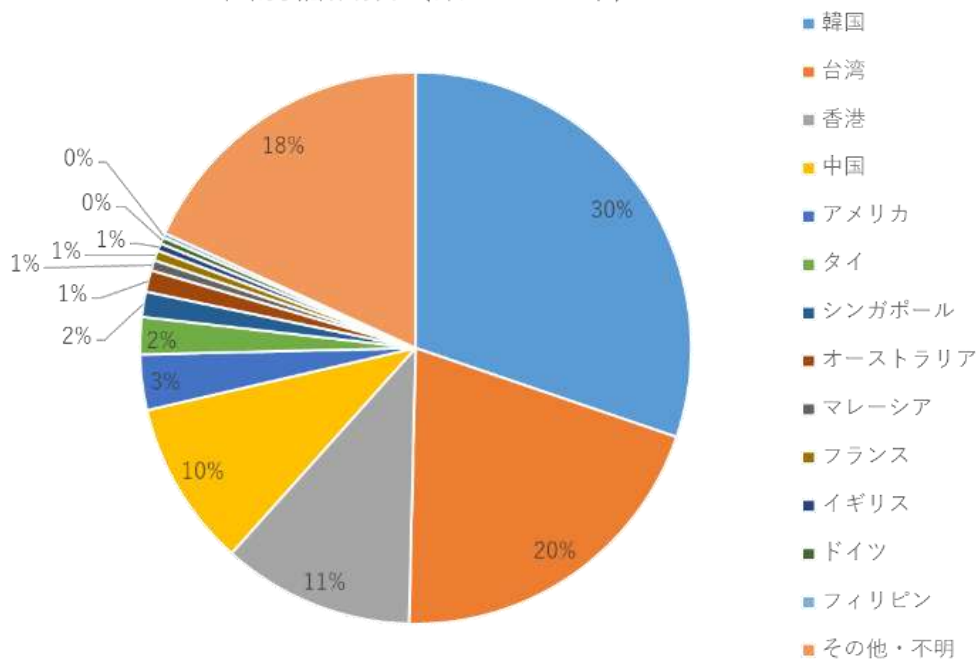
- ・全国、佐賀県並びに当市では、「韓国」と「台湾」が上位を占めている状況は共通
- ・全国と比べ、佐賀県と当市では「香港」の割合が高く、アジア圏からの来訪割合が多い
- ・佐賀県と比べ、当市では欧米豪の割合がやや高い傾向にある

国別宿泊数（国：2023年）



資料：宿泊旅行統計調査参照（観光庁）

国別宿泊数（県：2023年）



(6) 観光入込客数

[ポイント]

- ・主な観光施設等については、入込客数がすべて増加に転じている
- ・10万人以上の集客力を持つ観光施設等は、8か所
- ・特に、唐津城、旧高取邸、鯨組主中尾家屋敷、名護屋城跡の入込客数の増減比率は100%以上増加となっている

<第2期戦略プラン制定前の2021年と戦略プラン遂行中の2023年で比較>

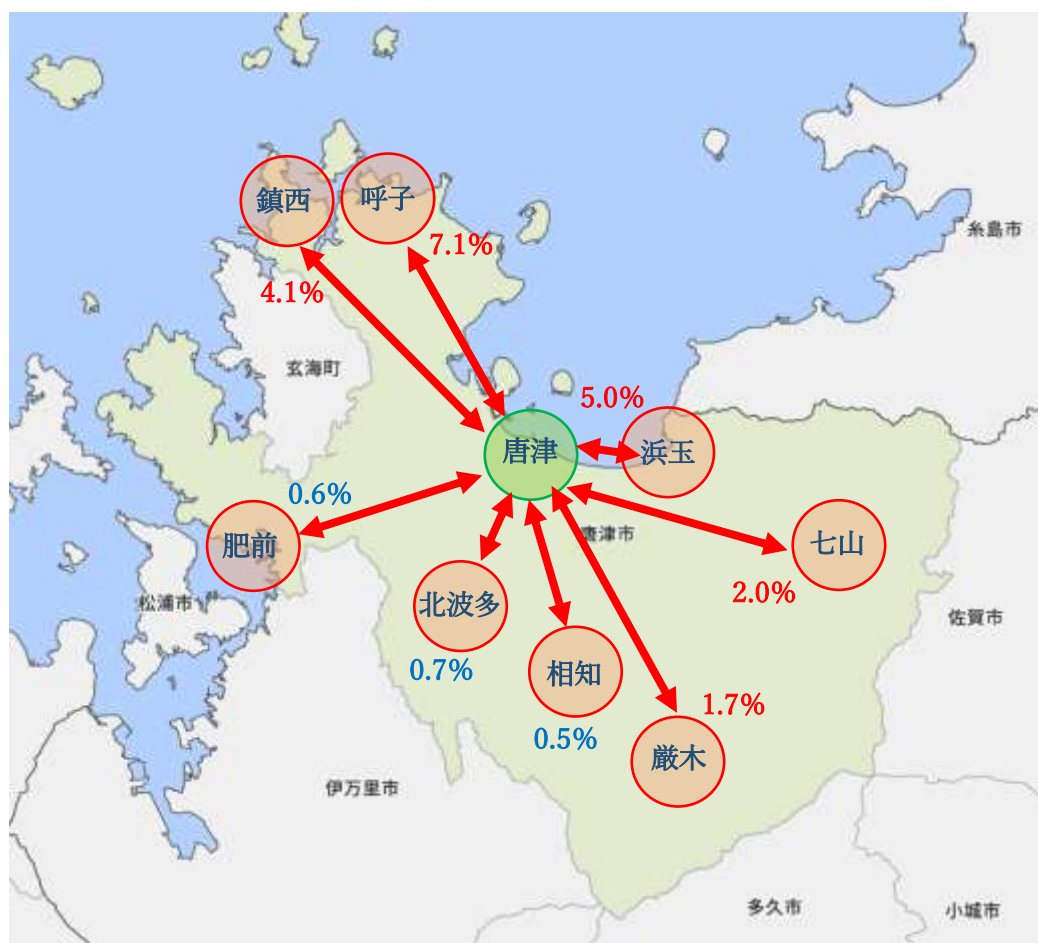
対象施設	2023年実績	2021年実績	増減比率
唐津城（天守閣入場者数）	145,157	70,177	110%
鳴神温泉なのゆ	132,423	102,685	29%
曳山展示場	38,808	24,492	58%
旧唐津銀行	36,291	20,347	78%
玄海海中展望塔 ※1	24,688	25,778	—
旧高取邸	16,420	7,735	112%
鯨組主中尾家屋敷	7,634	3,694	106%
旧大島邸	7,019	3,577	96%
アルピノ （レジ通過者数）	47,014	24,676	91%
道の駅桃山天下市 （レジ通過者数）	184,815	147,687	25%
道の駅厳木風のふるさと館 （レジ通過者数）	169,684	151,028	12%
鏡山（GPS 推計値）	216,256	154,391	40%
七ツ釜（GPS 推計値）	73,423	54,008	36%
名護屋城跡（GPS 推計値）	105,794	52,105	103%
呼子朝市周辺（GPS 推計値）	563,984	515,979	9%
舞鶴海浜公園（GPS 推計値）	285,743	198,106	44%

※1 玄海海中展望塔は、2023年9月から2024年3月までリニューアル工事のため、休館（2024年4月から12月までの入館者数は74,379人）

(7) 周遊状況(2021年)

[ポイント]

- ・唐津市街地と周辺地域の周遊率は、0.5%～7.1%
- ・周遊率が一番高い「唐津～呼子間」であっても7.1%と低い状況
- ・特に肥前、北波多、相知は1%を下回っており、周遊されていない状況
- ・北部と南部が境界となり、周遊率が大幅に異なる

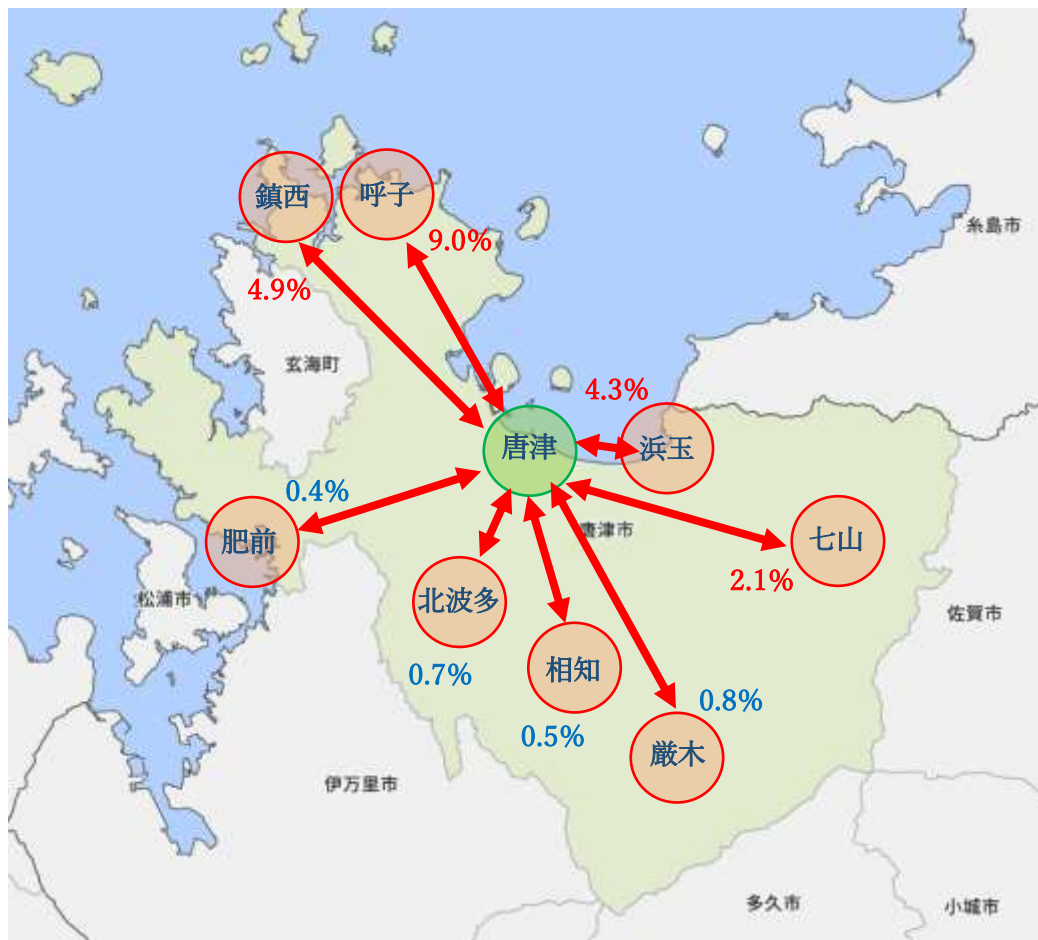


※唐津エリアを起点とした2地点間の周遊率を表記

周遊状況(2024年)

[ポイント]

- ・唐津市街地と周辺地域の周遊率は、0.4%～9.0%
- ・「唐津～呼子間」の周遊率が約2%上昇し 9%となったが、低い状況は変わらず
- ・1%を下回るエリアに厳木が加わり、肥前、北波多、相知の4エリアとなった

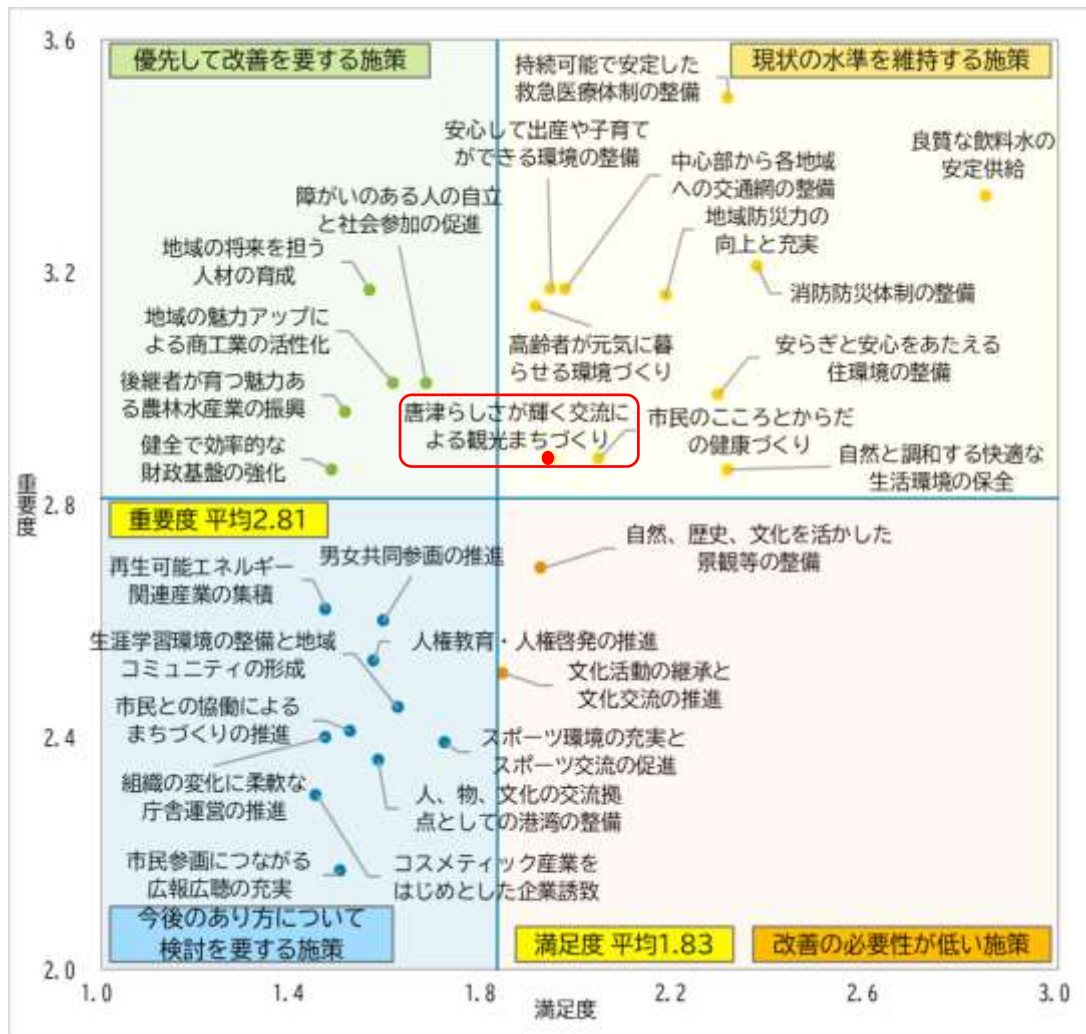


※唐津エリアを起点とした2地点間の周遊率を表記

(8) 市民アンケート等から見る満足度・重要度(観光施策)

[ポイント]

- ・当市の取組の中で「唐津らしさが輝く交流による観光まちづくり」は、現状の水準を維持する施策であるとの評価であった
- ・総合計画策定に向けて実施された地域別ワークショップにおいて、地域の魅力として「自然が豊か」「美しい景観がある」「観光資源が豊富」との市民認識が高い
- ・一方で、「呼子朝市の出店者減少や観光関連事業者の高齢化」「観光資源のPRが弱い、情報発信の強化」「体験型観光の実施」などの課題も挙げられている



資料：第3次唐津市総合計画基本構想「市民アンケート及び地域別ワークショップの結果」参照

(9) 戦略プラン2022年版の実施結果(2022年と2023年に実施した主だった事業)

I 観光産業の発展

- ・募集型企画旅行商品等造成に対して助成し、観光総生産額の増加へ寄与した
実施結果:145商品9,352泊、宿泊費換算1億1千万円以上を創出
- ・スポーツ・文化合宿等に対して助成し、観光総生産額の増加へ寄与した(2023年)
実施結果:3,337泊、宿泊費換算4千万円以上を創出
- ・じゃらん net 及び楽天トラベルの WEB サイト内に、本市の特設サイトを開設し、宿泊予約時に使用できる電子クーポンを発行
実施結果:特設サイトビュー数323万回以上
55,942泊、宿泊費総額(流通額)8億円以上を創出
- ・唐津ツーリズムコミッションを創設し、ロケ等の誘致と助成を行った
実施結果:相談件数47件、助成件数12件(市内161泊の創出)
映画4本、番組等25件が一般公開されるなど情報発信につながった
- ・地域一体となった観光地の再生・観光サービスの付加価値化事業の補助申請における地域計画を策定するなど、観光関連事業者の支援を行った
実施結果:国の補助事業採択 5事業者、補助採択総額1億9,856千円
- ・GPS 位置情報システムを活用し、人の流れの傾向や属性等の調査分析を実施
実施結果:市 HP で毎月オープンデータを公表
戦略プラン資料編の基礎資料や事業分析等にも活用し、傾向を把握
- ・市内宿泊施設における域内調達率を調査(市内発注を前提に一次波及で調査)
実施結果:2022年 平均値72.3%、2023年 平均値68.3%

II 入込客数の回復

- ・募集型企画旅行商品等造成や宿泊予約サイトで電子クーポン発行を行うなど、宿泊喚起対策を実施し、入込客の回復に寄与した
実施結果:2022年 延べ宿泊数444千人、2023年 延べ宿泊数449千人
- ・旅行会社との商談へ参加し、旅行商品の造成を促進した
実施結果:173社と商談し、15社44商品の造成につながった
- ・観光の公式LINEを開設し、SNS等による情報発信を実施
実施結果:公式LINE登録者数1万人突破、35回の情報発信を実施
- ・メディアや企業等と連携したコラボ企画やプロモーションを展開
実施結果:プロモーション動画240万回以上再生、広告換算額1億5千万円以上

Ⅲ 滞在延長

- ・佐賀県と連携し、肥前名護屋城の活用事業「はじまりの名護屋城プロジェクト。」を実施
実施結果：豊臣秀吉ゆかりのストーリー性を活かした「はじまりの大綱引」や大茶会の開催をはじめ、全国のゆかりの地との連携により、地域の機運醸成と滞在時間の延長に寄与した
- ・電動アシスト自転車の貸し出しをはじめ、周遊ルートの提案を実施
実施結果：観光案内所で電動アシスト自転車の貸し出しを行ったほか、欧米豪向けのアドベンチャーツーリズムの一環として、サイクリングのモデルコース造成に着手した
- ・ルートグランブルーを中心に新たなドライブルートなどの情報発信を実施
実施結果：宿泊予約サイトと連動させた情報発信やテレビCM放映による情報拡散を行い、来訪意欲の高揚と滞在延長を促した

Ⅳ 観光インフラの活用

- ・観光施設等の和式トイレの洋式化を実施
実施結果：洋式化率がほぼ100%となり、受入環境の向上につながった
- ・二輪対応の受入環境を整備
実施結果：東城内駐車場にサイクルラック設置及び二輪駐車場を整備した
- ・デジタルアプリ等を活用
実施結果：観光公式LINEを活用したデジタルキャンペーンや、SNS等での情報拡散など複合的に情報を発信した
- ・デジタル技術を活用した観光施設のリニューアル
実施結果：玄海海中展望塔内にプロジェクションマッピングを導入し、リアルとバーチャルの双方で楽しめる施設へとリニューアルを行った
- ・駅周辺の人の流れを創出するための取組
実施結果：JR九州と連携したサイクルトレインの実証実験、JR唐津線沿線自治体と連携したツアー企画や県と連携したロマサガステーションを開設

2022年版 達成度	具体的施策数	実施した事業数	達成率
I 観光産業の発展	16	15	94%
II 入込客数の回復	9	9	100%
III 滞在延長	12	12	100%
IV 観光インフラの活用	18	14	77%
合 計	55	50	91%

(10) 戦略プラン2022年版の評価

[ポイント]

- ・目標値に対する実績値(2023年)は、達成した結果となった
- ・コロナ禍の影響もあるが、2020年との比較においては大幅に増加(回復)している
- ・観光総生産額は増加傾向にあるが、域内調達率は低下している

2022 年版 達成目標	目標値 (2024 年)	参考値 (2020 年)	実績値 (2023 年)	達成率
観光総生産額	150 億円	95 億円	206 億円	137%
宿泊者総数	50 万人	33 万人	50 万人	100%
日帰り客数	265 万人	175 万人	348 万人	131%

※実績値は2023年の数値を用いる

※達成率(%)は、実績値(2023年)／目標値(2024年)×100の数式で算出

※観光総生産額は、観光消費単価7,722円(2020年)、7,614円(2023年)を用いて算出

域内調達率(宿泊施設のみのアンケート調査)は、0.64(2020年)、0.68(2023年)

※宿泊者総数は、日本人の延べ宿泊者数を表記(訪日外国人は含まれていない)

(11) 観光関係団体等の主な意見

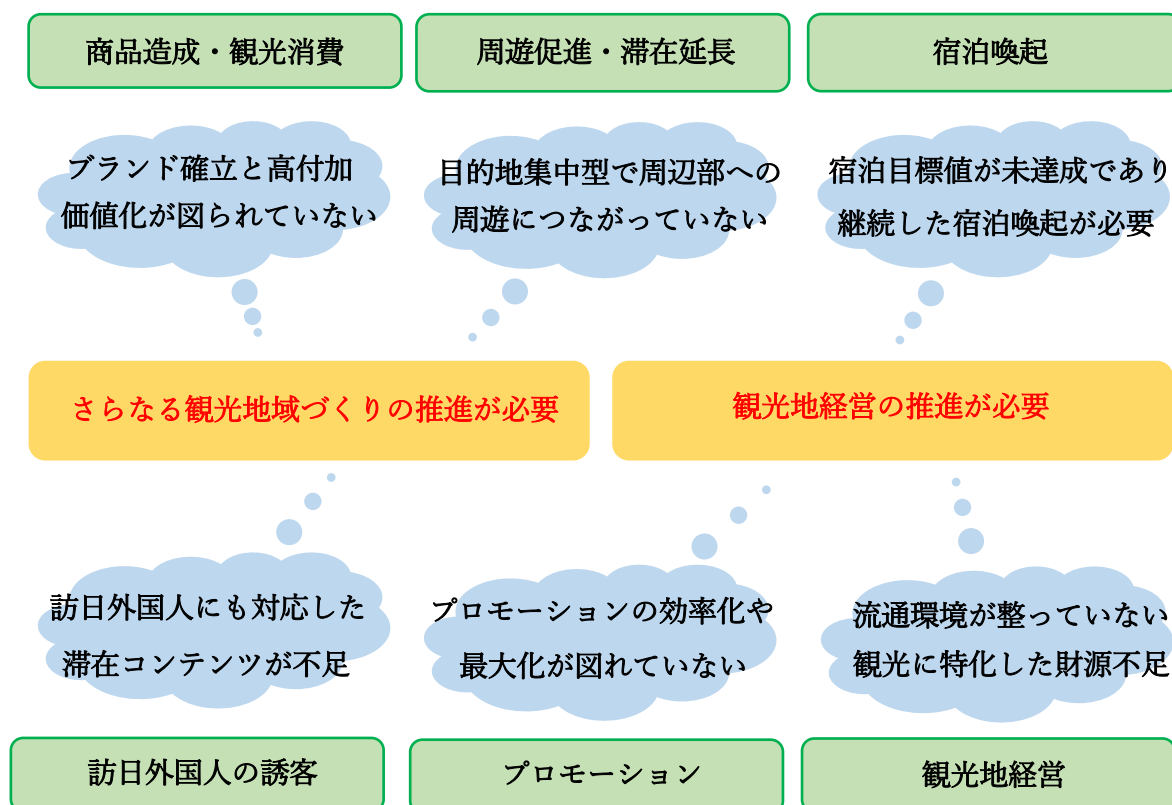
[ポイント]

- ・観光としてのブランド確立が必要
- ・実際に観光客に足を運ばせるためのストーリーとデザインや体験を組み合わせたコンテンツの造成が必要(高付加価値化や地域間の連携強化)
- ・国内外観光客の誘客と観光産業の発展に向けた支援が必要
- ・旅行商品造成等への助成をはじめ、継続的な宿泊喚起が必要

(12) 課題

[ポイント]

- ・コンテンツの高付加価値化をはじめ、売れる商品造成につながっていない
- ・特定の観光地だけに立ち寄りそのまま市外に出てしまう割合が高く、滞在時間が短い
- ・キャッシュレス決済や Wi-Fi 環境の整備といったインバウンド受入環境の整備は年々進んでいるものの未だ行き届いていない
- ・各種観光関係ホームページの多言語化、外国語対応の観光ガイドといったソフト面においても十分とは言えない状況
- ・タイムリーな情報発信が十分とはいえず、プロモーションも限定的となっている
- ・旅行商品等の販売体制を含め、地域の魅力を持続的に流通させる環境や推進体制が整っていない



(1) 基本方針

第3次唐津市総合計画に掲げる目指すまちの姿「魅力ある自然・歴史・文化にあふれた住みたい 訪れたい 選ばれるまち 唐津」を実現するため、「唐津らしさが輝く交流による観光まちづくり」に取り組みます。

当プランにおいては、唐津らしさを輝かせるため、地域が本来持ち合わせている自然・歴史・文化はもちろんのこと、地域の独自性や地域ならではの地域資源を磨き上げ、持続可能な観光コンテンツとして確立させることを目指します。

また、人々の価値観やライフスタイルの多様化に加え、旅行スタイルや市場ニーズが著しく変化するなか、地域が一体となった魅力ある観光地域づくりを推進するためには、マーケットインの視点は欠かせないものであり、適切な販路開拓や情報発信にも重点を置きながら、観光による「人の流れ」の創生と、関係交流人口の拡大につなげていきます。

(2) 基本施策

基本方針に基づき、新たな観光需要の創造と稼ぐ観光を展開していくために、2つの基本施策に取り組んでいきます。

I 魅力ある観光地域づくりの推進

II 価値を活かした市場開拓と観光地経営を展開

(3) 達成目標

I 日本人延べ宿泊数 50万泊

II 訪日外国人延べ宿泊数 5万泊

III 市内エリア間の周遊率 2%UP(3~9%)

(4) 基本施策

施策Ⅰ 観光産業の発展

新たな観光需要の創出と高付加価値化へつなげていくため、宿泊施設や飲食店などの観光関連事業者が実施する各種取組を下支えする。

(1) 観光関連事業者への各種支援

<主要予定事業>

1	コンテンツ等の高付加価値化に向けた各種支援
2	実証事業等への協力と下支え
3	国への補助申請等に対する協力並びに連携
4	新たな財源確保の検討と観光地経営の推進

(2) 基礎情報の集約と活用

<主要予定事業>

1	観光情報を発信するプラットフォームの充実
2	デジタルを活用した情報発信の強化
3	オープンデータの定期レポート化

施策Ⅱ 国内外宿泊観光客の増加

日本人のみならず、訪日外国人にも旅の目的地として、唐津を選んでもらうとともに、市内宿泊へつなげるためのキャンペーン等を実施する。

(1) 国内外旅行志向者に向けた宿泊喚起

<主要予定事業>

1	宿泊助成制度の拡充（海外向け助成、債務負担行為設定等）
2	宿泊予約サイト（OTA）を活用した宿泊喚起
3	宿泊旅行商品（パッケージツアー等）の提案

(2) 宿泊喚起につなげるための情報発信

<主要予定事業>

1	テーマの深堀やストーリー性を持たせた情報発信
2	宿泊キャンペーン等の開催
3	観光ブランディング及びプロモーションの強化

施策3 滞在時間の延長

新しい旅のスタイルや顧客ニーズに応じた観光商品の磨き上げをはじめ、価値を実感できる体験型コンテンツの開発等につなげる。

(1) コンテンツの高付加価値化

<主要予定事業>

1	体験型・体感型アクティビティの発掘
2	滞在型観光プログラムの開発
3	アクティビティやコンテンツを活用した面的な取組の実施

(2) 周遊キャンペーンの開催

<主要予定事業>

1	周遊パスポートや観光カード等の周遊促進策の実施
2	企業とタイアップしたキャンペーンやイベントの開催

施策4 海外市場に向けたプロモーション強化

唐津の魅力を発信し、「行ってみたい、行きたい」と思わせる観光プロモーションを展開するとともに、旅行会社向けの営業等の強化を図る。

(1) 海外市場の開拓

<主要予定事業>

1	欧米豪、東アジア向けプロモーションの強化
2	旅行会社向け商談会への参加並びに営業活動の強化

(2) 各種関係団体等との連携

<主要予定事業>

1	九州観光機構、佐賀県や佐賀県観光連盟等との連携強化
2	市場やテーマに応じた地域連携や観光関係団体等との連携
3	訪日外国人の受入環境の充実に向けた連携

(5) 支援体制と役割分担

1 唐津市

魅力ある観光地域づくりの推進
観光協会並びに観光関連事業者への支援・サポート
広域的なプロモーション及びキャンペーンの開催
新たな財源の確保に向けた検討と観光地経営の推進

2 観光協会

観光情報のプラットフォームの充実（ホームページリニューアル等）
旅行商品の提案並びに宿泊喚起の実施
観光客の受入体制の強化（観光案内所運営、ガイド育成など）
観光協会の組織強化

3 旅館組合（宿泊事業者）

宿泊喚起に向けた事業連携（商談会等への参画、営業等の強化）
市、観光協会、観光関連団体との連携強化

4 観光関係団体及び観光事業者

体験型・体感型コンテンツの開発・造成
各種キャンペーン等への積極的な参画
観光事業者同士の連携強化

5 市民

おもてなし意識の醸成
唐津ならではの来訪者へのおもてなし
市主催事業やイベント等への参加

6 地域

観光資源の保全と活用
観光地域づくりの推進に対する理解と協力

4 用語の定義

■関係交流人口（頁1：位置付けと目的）

唐津と多様な関わりや交流を持つ唐津市外の人々

※以前居住または勤務していた、唐津ファン、親等の故郷、通勤による往来など、何らかの関わりがある人々（関係人口）、並びに観光による来訪者（交流人口）など

■観光産業（頁2：目的と趣旨）

観光消費等の効果が得られている観光に直結する幅広い産業の総称

主に宿泊業・飲食サービス、土産品業（卸売・小売業の一部）、二次交通（運輸業の一部）、旅行業、観光施設を指す

■観光消費（頁2：目的と趣旨）

観光により、市内で消費された額

■周遊率（頁3：プランの位置づけ）

位置情報システム（GPS）を用いて、市内9エリアの周遊状況を率で表したもの

数値目標は、唐津エリアを起点とし、他のエリアの2エリア間での周遊状況を算定

■延べ宿泊数（頁3：プランの位置づけ）

唐津市内に宿泊した日本人及び訪日外国人の延べ宿泊数

■観光関連事業者（頁11：市民アンケート等から見る満足度・重要度）

観光産業に加え、観光に関連する全ての事業者の総称

■観光総生産額（頁12：戦略プラン2022年版の実施結果）

観光消費額が地域経済へどのように貢献しているかを数値化したもの

[算定式] 観光総生産額＝①入込客数 × ②観光消費額単価 × ③域内調達率

■域内調達率（頁12：戦略プラン2022年版の実施結果）

観光産業において、消耗品目やサービスの原材料を域内で調達している割合